

第6回 函館市都市計画マスタープラン市民懇話会 会議録

□日時 : 令和6年11月26日(火) 18:30~20:30

□場所 : 函館市役所 8階第2会議室

□出席者 : ■委員(6名)

奥平委員, 阿知波委員, 渡部委員, 仙石委員, 高澤委員, 堀田委員

■事務局

小畑都市計画課長, 上田主査, 関主査, 茶野主査, 溪本技師, 梅村技師, 大柳主事

□傍聴者 : なし

□議事

○事務局

皆様お疲れ様でございます。出席予定の小森谷委員まだ見えられていないんですけども、開始時間も過ぎましたので、始めさせていただきたいと思います。本日はお忙しいところご出席いただき誠にありがとうございます。ただいまから第6回函館市都市計画マスタープラン市民懇話会を開会いたします。これより進行は奥平座長をお願いいたします。

○奥平座長

それではまず初めに出席委員の確認をしたいと思います。ただいまですね、欠席者がですね、三橋委員と辻委員と小森谷委員になっておりまして、小森谷委員は出席予定だったんですけど、まだいらしていないということです。今のところ3人いないということで始めていきたいと思います。

次に今回予定されている議題に入っていく前に、前回第5回の懇話会の会議録を確認してまいりたいと思います。お手元にある会議録の案がございますでしょうか。そちらに基づきましてですね、皆さんこれを今見ろってのもかなり大変かもしれませんが、事前に見ていただいていると思いますけれども、何か修正点等がございますでしょうか。大丈夫ですか。はい。ではそのままでもいいでしょうか。それではお手元に配付しております次第に沿って順次議題を進めていきたいと思っています。

前回の第5回懇話会では、都市機能の配置とまちなか居住の考え方というテーマに基づいて、委員の皆様にご議論いただきました。今日の議題ですが、本市の魅力と資源を活かしたまちづくりの方向性、函館らしさのあるまちづくりと称して、函館市におけるまちづくりの方向性について皆様にご議論したいと思います。では事務局より資料の説明をお願いいたします。

○事務局

はい。それでは委員の皆様事前に配付しております資料についてご説明させていただきます。今回はまず目次ですけどもテーマの共有、函館市の資源、地区別の函館市の魅力。で最後に懇話会で得られた主な意見としております。ただいま奥平座長からもお話しありましたけれども、本日のテーマは本市の魅力と資源を活かしたまちづくりの方向性、函館らしさのあるまちづくりでございます。議題でございますけれども、本日は函館市の魅力と特色、ともう一つが地区別のまちづくりについてご議論いただきたいと思います。

資料の内容につきましてですけども、まず一つ目といたしまして、函館市の魅力と特色。函館市では都市別の魅力度ランキング及び自治体ブランドランキングにおいて全国一位に輝いております。全国的に見まして魅力のある都市と評価されております。函館市は市外の人からの評価が非常に高いことが特徴的でございます。次に都市計画マスタープラン見直しのための市民ア

ンケート結果から抜粋したものでございますけれども、一方市民が抱く函館市の満足度といたしましては、日用品の買い物の便利さですとか、住宅周辺環境の快適性が地域に対しては高い。魅力的なまちなみ景観、自然環境の豊かさが函館市全体では高いという結果になっております。全体を通して、比較的満足度の低い項目は、これまでの市民懇話会で議論された内容にほぼ即していると思われまます。例えば賑わいや活気、地域内の交流や連帯感、バリアフリー、空き家空き地の管理、自転車が走りやすい道路、レジャー娯楽等に関しまして比較的満足度が低くなっております。

続きまして、函館市のような様々な地域資源についてまとめております。函館市の地域資源について自然資源、歴史的資源、地域文化的資源、都市公園等資源、国際交流資源、公共広域資源、特産的資源などの切り口で整理いたしました。内容を少しお話しします。自然資源につきましては縄文遺跡ですとか、南茅部にあります地熱発電所、あとは函館山からの夜景ですとか西部地区の景観など。歴史的資源につきましては世界遺産でもあります縄文遺跡、五稜郭跡、あとは函館で代表的な建物でもあります旧函館区公会堂等です。地域文化的資源につきましては函館港まつりですとか函館マラソン等。都市公園等資源につきましては、函館公園や四季の杜公園。国際交流資源につきましては、函館空港や函館港。高等教育機関につきましては北海道大学、北海道教育大学函館校、はこだて未来大学、函館大学、函館高等専門学校です。特産的資源につきましては食料品といたしまして、イカ、昆布、ぶりなどの水産資源ですとか、湯川地区、東部地区の温泉として整理いたしました。

続きまして地区ワークショップの開催概要でございます。これは前回地区ワークショップの取りまとめ資料を委員の皆様へ配付させていただいたところでございますけれども、その概要について示したものです。本年、令和6年8月から10月の3ヶ月間で計4回の地区別のワークショップを実施いたしました。続きまして地区別の特色についてでございます。これまでの懇話会などを踏まえて、地区別の特色を整理した表になっております。色別になっておりますのは、青で書いてあるのが地区別ワークショップより取りまとめたものです。緑につきましては現行の都市計画マスタープランの地区別のまちづくり方針から、オレンジ色はですね市民懇話会で得られた意見、紫色がこれまでの懇話会の資料からです、黄色の部分が地域公共交通計画から、赤色が函館市統計データという形で取りまとめております。

続きまして最後にこれまでの市民懇話会で得られました主な意見についてでございます。ご議論いただきました第2回から第5回の市民懇話会で、委員の皆様へ議論していただきました重要なキーワードやご意見を函館市のまちづくり方針検討の際の参考としたいと思っております、分かりやすくキーワードとしてまとめたものになります。資料の説明は以上でございます。

○奥平座長

はい。ありがとうございます。ただいまの説明につきまして何かご質問、ご意見などありませんでしょうか。

はい。ですね、これもしなければですね、そのまま議論に入っていくことにはなりますが、まず議論に当たってですね、函館の魅力とそれから特色、らしさ、資源と特性を活かしたまちづくりという切り口でいくんですけども、地区別のまちづくりということで地区別は何だろうということなんですけど、この所謂地区別っていうのは6地区になるんですけど、これら地区のそれぞれについてどのようなまちづくりが必要なのかということをお話ししていただくことになるのかなと思います。

皆さんが話しやすい部分と、わからない部分が結構あるのかなと思いますが、一応わからないところもですね、今日は無理やりご指名をしましてですね、聞いていこうと思っておりますので

一応よろしくお願いいいたします。

まずですね、函館市の魅力と特色のところですよ、地域ブランド調査魅力度ランキング、所謂ブランド調査ですけども、これがですね、これが非常に外からの評価が高い。久しぶりに1位に戻ってきました。なんで1位に戻ったかよくわからないという市民からの感想なんですけれども、逆に言うと3位に落ちてもなんで3位に落ちたかよくわからないというところは、やっぱりこれ外部評価だからですよ。でね、外からの評価非常に高いんですけども、中核市の幸福度ランキング、これ日本総研のデータなんですけど、これがですね、非常に低くてですね、48自治体中45位です。極端ですよ。極端に違うというところが函館市の特徴かな。これ1位ですよ。でも満足度評価は駄目ということですよ、幸福度ランクが低いという結果になってます。でね、市民アンケートの調査結果から、市民の満足度などは一体どうなっているのかというところがまず一つ大事なところかなと思います。

切り口としてはですね。あとはですね、今後も持続的に魅力と特色を続けていくというためにはですね、必要な資源や特色はどんなものかということですよ。そうすると自然資源や歴史的資源、それから地域文化的資源、それから公共公園、所謂公園ですね、それから国際交流資源、高等教育資源、これ先ほどスライドがあったこの部分ですけども、といった資源をどのように活かしていくのかということが、この中では議論が必要かなというふうに思っております。

はい。もう次がですね、非常に難しい例の地域別のまちづくりということになるわけなんですけれども、都市計画マスタープランにおいてはですね、地区別のまちづくりの方針をつけることになっています。今日は、これまでの資料、懇話会の資料とか、あとこれまでの懇話会での議論、それから地区別のワークショップでの課題等を振り返って、地区別の特色を活かすためにはどんなまちづくりを目指すべきかということですよ、議論する必要があるということになるんですが、これがメインかなと思いますね。今日はね、ということになるかと思うんですけどその前にですね、まず皆さんにいきなりこれ当てるのもおかしな話なので、それぞれの地区の特色ですね、特色をですね、どのように切っていくのかということですよ、簡単にちょっと私の方からご説明をしたいなと思うんですけども。

これ地区別でいうとこれ読むとですね、何が特徴なのかよくわからないという話があるんですけども、これたくさんありすぎてよくわかんないことがあります。じゃあ西部地区から順番に見ていくと西部地区では一体何が特色なのかということなんですよ。特色なのかということなんですけれども、生活は割としやすいということが書いてあります。でも、あとそれから飲食店もある、温泉もあるぞ、で遊び場もあります。あとは市電が通ってるから便利という感じですかね。あとはそれから函館駅もあるし、AI デマンド交通の今実証やっています。あとは文化遺産というか、所謂歴史的まちなみの保存地区になっている関係から、いろいろな歴史的な建物が残っているということ、そしてあとはミシュランのグリーンガイドジャポンの三ツ星の函館山を抱えているということ。そして温泉がある。そして公園もたくさんあるということですよ。公園もうたくさんというか大きい公園が二つあります。元町公園と函館公園がありますので、緑地とかそういう点で言うとですね、非常に恵まれた環境がここにはあるのかなと思われま。先に強みだけやっちゃいます。

次に中央部地区です。中央部地区はですね、大変便利です。それから娯楽施設もたくさんあります。公共交通も充実していて、あと公園もあるし、それからタワーもあるし、そして大学もあるというようなところがあります。食文化とすれば、ナイトタイムエコノミーの中心部は大体駅前から五稜郭にかけての地区かなというところになるのかなと思いますね。

あと、東中央部ですけどもここはですね、大型の商業施設があったり文化施設が複数立地してい

るということで、湯川の方ですね。はい。湯川の方ですからこれはアリーナとかがあるというところですかね、ということですね。あとは競馬場もある競輪場もあるというところ、そして空港があると、そして市電の終点もあるということで市電も通ってるということで交通機関も割と便利であると。歩道整備も進められつつあるというところ。これ湯川ですね。あとは新外環状線が延伸したことでですね、この地域がですね、非常に便利になりました。前はですね、ここ湯川地区、湯川とかこの辺の地区は行くのが大変なところだったんですけども、今ですね、ようやく簡単に行けるようになったというところもあります。あとは湯の川温泉街ですね。そして歩きやすいまちなみの整備。で私もですね、まち歩きでこの湯川やるんですけども、割と知られてないんですけども、湯川は結構たくさん見どころがあるので、そういったところも発信してもいいのかなというところがあります。あとは見晴公園ですね。見晴公園は今ちょうどもう終わったかな。紅葉の時期になるとですね、車が大渋滞してですね、ちょっとオーバーツーリズム気味なところを作ってる場所でもあるんですけども、ここもですね、文教通がちゃんと開通すればもう少し緩和されるのかなとは思いますが、そういうところですね。

それから北東部です。北東部は美原になるのかな。美原地区ですね。はい。ここはですね、元々の所謂亀田の人口集積地でもあります。やはりここもですね、言ってみれば人口非常に多い、地区別人口では一番多いわけですね。多い割にですね、周辺に行くとはですね、大きな公園が、道立公園があったりしているということ。それからインターチェンジもありますし、言ってみれば道路は非常に整備されてるのかなというところ。あとは大学は未来大があると。そして亀プラができたことで新しい賑わい空間というのができたのかなというところがあります。それから山林とかが多くてですね、自然が豊かっただけですね、言ってみれば、西部地区とよく似た環境なのかなというところはあります。

そして北部です。北部はですね、これで言うとはですね、北部。これ港側ですよ。そういうことですよ。これ鉄道を挟んで反対側の方ですね。線路西側の病院あるところですね。ですので、病院もあるということで非常に便利であるということ。それから水産学部、大学もあってですね、言ってみれば、今言ってた東央部とか、中央部、それから、北東部、北部は大体似たような大学施設があったりするということで、似たようなそのメリットを持っているのかなというところではあります。港を持っているので、北部の方ではフェリーターミナルとか、あとそれから大型客船が止まる港町ふ頭ですね、があったりするということで、割とですね、ここは船の出入りとかを関係すると、ちょっと違った町並みが展開してるのかなと思います。昭和公園が出ていますけど、昭和公園をどう説明しようかなと今は考えてましたけれども、昭和公園は線路のすぐ反対側のところにあってですね、割と知られてないんですけども、線路をくぐっていくとすごい近いという場所なんですけれども、知らないとはですね、すごい遠回りをしていかなきゃならないという場所でもあります。

あとですね東部地区についてはですね、もう自然とですね、自然に囲まれた最高の立地です。人はいないですけど。あとキャンプ場もあるというところですね。言ってみれば市内からですね、何となくアウトドアをやりに行く場所っていうのは東部地区かなという場所になってます。空港があるということでアクセスは割といいんですけども、ただ高規格道がないので、割と時間がかかります。あとここはあれですね。縄文遺跡があるということで、世界遺産があるということで、世界遺産がメインみたいになっているのかなというところはありますね。あと水無海浜温泉、皆さん入ったことありますか。

○仙石委員

入ったことはないけど手前で。

○奥平座長

手前で終わった。どうですか。

○仙石委員

鹿とか。

○奥平座長

鹿入ってますから。私はね、何回も入ったことがありますよ。何回も入ったことあってですね、あそこなかなか満潮時じゃなきゃ入れないというですね。干潮時は熱湯なんで、ちょっと入ってられないんですけども、満潮時にはですね、ちょうどいい温度になってですね、夏場なんてなかなか楽しいですよ。蟹につままれたりするんです。はい。なんてのはありますけど、はい。あと公園がいっぱいあるということと、それから漁業の地域なので、海産品がいっぱい取れるというところがアピールされているというところなんですけど、これ今強みを皆さんにご説明しました。じゃあ弱みは何だということなんですけど、弱みは今までの議論の中からいっぱい出てきたかと思うんですけど、例えば西部地区ではですね、赤字ですね。娯楽施設がない。これですね。娯楽施設。で娯楽施設の定義は一体何だということになるんですけど、皆さんこれはどうお考えになりますか。この場合の娯楽施設はどう捉えるか。西部地区の娯楽施設ないぞ、なんだろう娯楽施設って。これ全市に広げた場合の娯楽施設は何になるか。これちょっとご意見を頂戴したいなと思いますけど。

○仙石委員

映画館、カラオケ、アミューズメント施設。

○奥平座長

映画館、カラオケ。

○仙石委員

所謂アミューズメント施設。中央部地区に書いてあるものがない。

○奥平座長

ない。こんなもんですかね。

○渡部委員

ショッピングモールとかですかね。

○奥平座長

ショッピングモールですね。そうですね。それは全市ないですもんね。これ全市共通なんですけど、実はですね、市民が憩える場がないんですよ。だからまちなかでどっかに今日日曜日だし暇だなと思ったら、どこに行こうって言うと、これ例えばモールがあると、そこに行って1日潰すなんてことができるんですよ。函館市内はもう仕方ないのでみんな蔦屋で過ごしてますよね。蔦屋がその代わりをしてるっていう不思議なまちなってますけれども。そういうところが一つない、駄目な部分かなと思うところはありますね。はい。あとどうですか皆さん。駄目な部分で、ちょっとこれは後で議論しなきゃならないなって部分ですけども。低地ですよ。津波のリスクがある。これですよ。割とですね、何も考えずにですね、標高の低いところにいっぱい、人がいっぱい行くような場所もあるというのが函館の特徴で、過去ですね、実は函館は津波の被害を受けたことがほとんどないんですよ。受けたのが、一番ひどい被害を受けたのはチリ地震津波のときの被害が一番大きくて、あのときは住吉漁港から越えてきたんですね。住吉漁港側からですね、港側に津波が抜けたっていうぐらいでしたので、かなり大きな津波で当時の高さが4mって書いてあるんですけど4mできなかつたようですね。おそらく7、8mの波がないと標高6mぐらいあるので、越えられないので、越えてきたということは、そういうことなのかな。越え

てきたって言って証言してるのはうちの母親で、実際見た。越波してきたっていうのが見えたっていうもんですから。本当に越波したんだろうなど。写真も残っていて、水浸しになってる写真がいっぱい残ってるので、おそらくそういうこと言うと昭和38年のチリ地震津波が一番被害が大きかったのかなと思います。東日本大震災の際は2.5mぐらいだったので、港側の方が浸水したというだけで、あと1人逃げなくてですね、亡くなった方で死者1名になったという悲しい出来事がありました。そういった例があるぐらいです。だから津波に関しては、割とですね、所謂大きな津波は来ていないんですね。来てないんですけども、問題はですね、震源域の問題があります。震源域の問題もあるんですけど、ただチリ地震津波とかやはり大きな津波が来てますので、それぐらいの規模の地震がですね、もし海溝部で起きた場合には、函館でも10mを超えるような津波が起きてもおかしくはないのかなというところがありますし、函館の地形的な面で言うそうですね、津波がですね、1回湾内に入ってですね、増幅されて大きくなって港の方に押し寄せるとい傾向があります。ですのでそういったところもちょっと想定しながら、湾岸地区の安全をどう確保していくのかっていうのが問題になってくるのかなとは思っております。はい。

あとですね、娯楽施設が少ないのはもういいですね。あと問題点の弱みの方で見るとですね、道路がないとかですね、いざ、それこそ飲食店がないとか。そういう点でいうと、割と函館はですね、飲食店、繁華街が分散してるので、割とですね、他の都市に比べてもですね、あんまりこの商店街がないっていう話にはならない場合が多いんですけども、やはり小さい範囲に区切っていた場合にはないところはないということで、実はあの湯川もあまりないので。温泉街があるにもかかわらずない場所でもあるのでそういうところもですね、函館の特徴でもあるかなと思います。あとですね、割とですね、否定的な意見が少ないの皆さんお気づきでしょうか。肯定的な意見の方が圧倒的に多いということですね、函館捨てたもんじゃないなというところがまずここに見られるのかなと思うんですけど、ですから弱みをどう強みに、強みに変えることは無理ですけど、弱みをどう更に目立たないようにするのかっていうことも一つ議論の中で、お話していただければなというふうに思っております。

東部地区については最大の問題点は、人口の急激な減少です。人口の急激な減少で、今ですね、旧楸法華村の人口がですね、もう800人切ってるので。実際、実質なんかもう600ぐらいしかいないんじゃないかっていう話もしました。だからそうすると、一村三町全部足してもですね、もう人口がですね、8000人もないっていうような状況になってきています。実はもう一つ問題なのは、この東部地区では合併特例がまだ残ってまして、この合併特例を残したままでも、平成16年に合併してからですね、もうかれこれ20年経つんですけど、20年経ってもまだ続いてですね、これ一部ですね、市民、違うところの市民からですね、これってここだけ良い思いしてないかっていう言い方をする人もやっぱりいます。合併特例そろそろもういいんじゃないのっていう話も出てきていてですね、それがですね、この有料無料バスの共食いつてやつです。無料バスがこれ合併特例で走ってたためにですね、結果的にはですね、いつまでたってもそれが廃止されないの、未だに続いていて、路線バスの客を食ってるという。無料バスが路線バスを食うということが起きていてですね。これもちょっと問題だなということもありますし、これを続けていけば、当然、函館バスさんが続かなくなった場合に、じゃあ誰がやるんだということになりかねないという部分が実は非常に問題です。だから交通の便で言うと、東部地区が一番、このあと危険というかなくなってしまふ。公共交通機関が消えるという運命もあるということは皆さんもご理解をいただければいいかなと思いますし、タクシー会社もですね、一旦ゼロになってるんです。一旦ゼロになったんですけども、第一タクシーが何とか復活させたので、かろうじて1社、今あそこでやっていますけれども、だからあれもいつまたいなくなるかわからないとい

うことで言うそうですね、全部自動車がいいのか、自家用車がいいのかっていう部分が、この西部地区の大きな問題点になってくるのかなと思います。こういう特徴を見ていくとですね、皆さんいろんなことを言いやすくなったかなと少し思うんですけども、言いたい放題言ってですね、今日はここで議論を深めていきたいなと思います。このマトリックスが一番わかりやすいかなと思うんですけども、やはり皆さんからですね、このそれぞれどうなのか、全員にですね、6ヶ所分みんな聞きますので、それをですね、いろいろ適当なことを言いながらですね、収束させていっていただければなと思っております。

私の方からは以上なんですけれども、大体ですね、一番やっぱり問題となるのは東部地区かなと思います。東部地区のそのまちづくりがどう進めるのかということと言うと、他の地区と全く違って急激に少子高齢化が進んだ地区でのまちづくりというのがこの地区だけ特化します。あとは大体同じような状況です。同じような状況ですし、割とですね、あともう1ヶ所あるとすればですね、北ですね。北部地区ですね。北部地区もですね、割とこの東部地区に近い状況かなと。家がたくさん建ってるように見えるんですけど高齢化がやっぱり進んでいまして、更にですね、函館病院が移ってからですね、高齢化が進んだという経緯がやっぱりありますので、そう考えるとやっぱりここもちょっと議論すべき点なのかなと思いますし、あまり文句言いたくないんですけども、実はこの北部地区分ける必要あったのかなというところがちょっとありましてこれどっかとくっつけても良かったんじゃないかな。ここだけ議論すると、東部地区と同じことになりかねないなっていうちょっと怖い地域でもあるので、そこはですね、皆さんちょっとご理解をいただければなと思います。はい。ではですね、それぞれいいですか。ここたくさんありますよ。ですからちょっと皆さん考える時間を差上げます。この手持ち資料ありますか。

○事務局 上田主査

スライドに映すことは可能です。

○奥平座長

そうですか。映していただけますか。手持ち資料のですね、4ページから各地区の特色が全部出てるんですよ。これ読めば良かった。まず出てるところから、順番にこれ全部いきなり6ヶ所全部言えってのもちょっと無理があるので、この映ってるところから順番にやっていきたいなと思います。まず西部地区と中央部地区について、皆さんに伺っていきます。西部地区から行きたいと思います。はい。もう大丈夫ですか。まちづくりの方向性。各地区のまちづくりの方向性はどうしたらいいか。この良い点と悪い点ごっちゃになってますけど。あれこれ良い点しか書いてない。

○仙石委員

西部地区の良い点とあとその弱みの部分をどう活かしていけばいいかっていうことですね。

○奥平座長

はい。これ今良い点しか多分書いてないと思います。悪い点はですね、先ほどの方の資料をご覧いただいてですね、両方見ながらお話いただければ大丈夫かなと思います。私もこっち、手持ちのこれを見ながら、こっちに欠点があるので欠点がついてますので、この欠点を参考にしながら、各地区の長所も入れながら、どういう方向性を持っていったらいいかっていうのをですね、これ別に答えは選びませんので。皆さんの意見一つ一つが全部生きるというふうにお考えいただければなと思うので、もう闊達な議論が、とかかどどん意見を言っていたらいいなと思っております。どうぞ。口火ありがとうございます。

○渡部委員

西部地区ですね。西部地区って仕事で歩いていると、道内外の方からは非常に良い印象の地区

なんですよ。非常に好印象であそこに住みたいねって言われる方が非常に多いように聞こえます。単身で来た方だとか、仕事で何日か1週間とか2週間滞在する方々も。ですからあその地区をこれに書いてある通りですね、空き地も多い、それから空き家も多いということなので、何か外からのリゾート的な地域に何かできないかなと思います。鹿部でリゾートと言われるところがあって、あそこは外からの移住や別荘として活用をしている方々が大勢いらっしゃるところなんですけれども、ああいう感じでですね外の方を自然豊かな西部地区に移住をしていただくというような地区にはいかがかなと思っていました。

○奥平座長

なるほど。ありがとうございます。口火を切っていただきました。阿知波委員どうぞ。

○阿知波委員

すいません乗っかるようであれなんですけども、関連して西部地区はここに書いてある観光の拠点地域であって、今日持ってきてくださいって言われたワークショップのちょっと意見でいいなと思ったのがあったんですけども、いろいろ規制とか既にやってるのかもしれないんですけども、函館はいろいろ映画の撮影とか小説の舞台だったりとかしてたり、今でもするんで、なんかワークショップでも書いてたんですけども、そういう映画の撮影とか誘致を、まあ今までもやってるんですけども、よりそういうのを力入れて、なんでしょう、やっぱり雇用とかも問題なのかなまちづくり、ちょっとそういう何か映画をみんなで、映画とかそういう撮影とかももっと特化したような規制とかもあると思うんですけども、そういうのでなんか人が集まってきて雇用なんかも生まれたりとかするのいいのかな。そういうのが今移住の話とかもあると思うんですけども、そういうことにまちづくりで、更に力を入れていったらどうかなってちょっとワークショップの意見とかも聞いて良い意見だなと思って。

あとはAI デマンド交通の話とかもされてると思うんですけども、確かあれですよ、学生さんとかも関わって、そういう未来大とか高専さんがあるとすると、それこそ学生さんたちがそういう新しい取り組みで函館に残ってくれて、そういう事業っていうか、取り組めるようなまちなになると、人も出てったりしなくなって、もしくは戻って起きたりとか、そういうことができるような地区になったらいいなとか、ちょっと意見聞いて思いました。以上です。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。どんどんいきましょう。はい、仙石委員どうぞ。

○仙石委員

お2人に口火を切っていただきましてありがとうございます。移住の話が出たので、私も移住サポートセンターをやっておりますので、その観点からお話をさせていただきますと、やはり観光で来る方、それこそ移住を検討している方にとっては非常に西部地区は魅力があります。坂があれといえど、雪かき大変だよとあれど、それでもやはり差し引いても非常にスローな時間が流れていて、過ごしやすいついていうところがあるのかなと思って、私も職場があるものですかから、なんかその雰囲気すごい好きでいいなと思うんですけど、具体的に何か、こういう課題もあり、良いところを活かすのであれば、観光の方とか移住を検討している方に活用してもらいたいなというふうに思って、例えば具体的に空き家を、どっかの回で言ったかもしれないんですけど、お試し移住とか、他の自治体でそれこそ厚沢部でなんかでちょっと暮らしとかやっているので、そういったところで、例えば西部地区を空き家を活用してもらおうようなところの施策もいいかなと思ってます。今年からお試し移住が始まりましたので。次年度以降ちょっと他部署にはなると思うんですけども、そういったところで部署間連携していただいて、西部地区の物件を活用した、そういうちょっと暮らしの例えばなんかいい場所を一棟借りて、移住検討してる方に四

季楽しんでもらって、もちろん借りてもらうには何らかの基準がいると思うんですけども、本気で移住を考えている方に使ってもらえる取り組みをしたらいいかなというふうに思います。今移住した方に空き家を活用してもらったら補助が出るって制度が一応あると思うんですけど、なかなかうまく活用しきれていないところが市として課題としてお持ちだと思うので、その辺もうまく実際に移住されてきた方にどうやったら使ってもらえる制度になるかっていうのも改善していきながら、やっていただけると非常にいいかなと思います。正直結構ハードルが高いかなっていうのを聞いてて思っていて、なんとというかすぐそこ買って移住を決めるって、あれって何年か住まないとわからないと思うんですけど、だからそこをもうちょっと規制を緩和すると検討しやすくなるのかなって。確か3年以内で決まっていたと思うんですけど、それを例えば5年とかにすると、もう函館に住もうねってなったら選びやすいのかなと思ったりもして。そういうところを生々の声を聞いていただいて制度作ってもらえたらいいなって思います。以上です。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。さあ、他に。あと2人しかいないんですけど、高澤委員いかがですか。

○高澤委員

はい。今日それこそ函館外から来られた方を西部地区に車に乗せて案内するところに同席してたんですけど、西部地区の十字街を越した辺りを車で運転しているときに、この辺って空いてる店舗とか空き家とか多いんですねって言われた言葉が結構印象的で、空き地空き家問題、空テナント問題っていうところも西部地区の重要な課題だなっていうふうに感じていて、そこをどう活かしていこうかっていう点でいうと大学生とかが西部地区に行くことってほぼないなっていう視点と、あと西部地区の歴史的な建物であったり、紡がれてきた歴史っていう部分が、それが結構研究だったり、学生の興味にすごいマッチしているなっていう点で、なんか西部地区あたりに大学のサテライトではないですけど、そういう施設があることで何かまちづくり、まちなみが変わるきっかけになるのかなみたいなのは考えていました。以上です。

○仙石委員

それめっちゃいいですね。うん。

○奥平座長

ちょっと残念なのは函館大学さんもね、サテライト作ったんですよ。

○仙石委員

つくってましたけどね。

○奥平座長

もう閉鎖しちゃったんだよね。

○仙石委員

何年前前に閉鎖しちゃったんだけど。

○奥平座長

金森のあれなんだっけ、洋物店、あと、ウイニングホールのところですよ。

○仙石委員

ちょうど東浜棧橋があるあたりに借りてたんですけどそこを閉めちゃったんですよ。

○奥平座長

あそこでね、結構会議とかやりましたからね。そうするとね。良かったんですけどね。なくなっちゃって、あれいつのまになくなったんだっていうのはありますけどね。

○仙石委員

コロナのちょっと前ですよ。

○奥平座長

そうですね。勿体なかったなと思います。はい。ありがとうございます。では堀田委員お願いします。

○堀田委員

今ちょうど大学のサテライトというお話があったので確かにと私自身も思いました。学生さんの活動をする場所としての西部地区というところもそうですし、社会人、仕事をしてる人間が働く場所としての西部地区っていうところの場所もできるといいのかなというところで、外からの流入というところでいくと、それこそワーケーションとして長期滞在をして長期期間働ける場所、ある程度のセキュリティが担保されてて、仕事をしてても差し支えないような場所ができると、仕事とセットで長期滞在をしながら函館で暮らすっていうことを意識した働き方っていうところを考えることができる場所ができるんじゃないかなと思います。

あと地域の中の働く人の考え方みたいところでいくと、シェアオフィスっていう形で小さい企業さんがいくつか入って間借りできるような場所みたいところもあると企業間で交流ができたりすることによって新しいビジネスが生まれる場所みたいところもあるとなんか新しい西部地区っていうところができてるのかなというふうに思いました。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。今の古民家再生で言うそうですね、大洋漁業さんが、歴町の古い建物をですね、再生して今活用して入っているというところがありますので、そういった事例が増えてくるといいのかな。それをですね、どっかがやっぱ音頭取っていかないと入ってこないかなというところはあるんですけども、すごい良いお話をいっぱい聞いたんですけど、実は一つ問題がありましてですね、やっぱりこの地区でネックかなと思うのが都市景観条例なんですね。都市景観条例自体がですね、受け入れる方の条例ではなくて規制の条例なので、それをどうするかっていうのがですね、実は議論されてないんですね。その部分も必要かなと思います。それをちゃんと正常化する意味で言うそうですね、市民、それこそそっちの方の市民懇話会も必要かなと。だからこの条例必要なの、この条例どうしたらいいのっていうのも実は考えないと、逆に、その条例に、エリアじゃないところはちゃんとうまくいきます。ところが、条例のエリアは入っていけないので、寂れますみたいな、なっていくと、また良くない。逆に空き地空き家ばかりになっていくということになりかねないので、やっぱりそのところの議論がやっぱりできないとちょっとまずいかなというのが、やっぱり平成の最初の頃の議論と今の議論ってだいぶ違うと思うんですよね。だからその部分がやっぱりまちづくりにこれからちゃんと活かしていき。これ市民の意見も入れた方が私はいいと思っていて、審議会だけでやるのではなくてですね、もっとオープンにして大きな枠組みでやっていただけるのが、実は都市建設部の方でやっていただけると一番いいのかなと、所管ですし、そうするとうまくできるかもしれないなとちょっと思ってる場所ありますね。だからその意見、どういう、市民がどういうふうに考えてて、どういうものを入れたらいいかみたいなのが全く見えないという状況よりはいいのかなとは思いますがけれどもね。

今皆さんから聞いててですね、あの先ほどのリゾートという話が出ましたが、短期滞在型リゾート、でワーケーションとききましたよね。そして移住じゃないですか。これって実は移行期がちゃんとあってですね、ワーケーションの前が短期滞在なんです。短期滞在していいとこだなってワーケーションで仕事してみる。仕事してみたら更にいいねってことでワーケーションから移住みたいな、そういう動きっていうのがですね、実は全国にあります。あります。そういうとこ

ろの事例とかもですね、ちょっと私もこれから取り入れていきたいなと思ってますし、こういう事例がですね、まちの活性化に繋がるかどうかという部分で言うそうですね、逃げられないためにどうするかというまちづくりの視点も必要かなと思います。だから西部、逆に言うと、西部地区で足りないものって何でしょう。ということで皆さんにお伺いしたいなと思うんですけど、いかがでしょうか。どうぞ。

○仙石委員

定住って部分になると思うんですけども、生活するのにちょっと不便。スーパーが1か所しかないとか、そこに集約されてしまっていて、坂がきついのでちょっと歩くの大変だったりとか、また雪がね、積もってしまうとちょっとご高齢の方は歩くのが大変かなってというのはありますね。なんか住む上では不便な部分もありつつ、ただ市電があるのでそれでいけるってということもあり、そうですね。あとは、なんだろう。ちょっと買い物しづらくなっているのはある。あと日曜日お店やってない。

○奥平座長

函館どこもです。

○仙石委員

どこもそうかもしれないですけど。企業局とSECが休みの日は飲食店閉まってるとかそういうのはありますよね。いや、正直そうなんですよ。そういう傾向にはありますね。

○奥平座長

観光地なのにそうなるんですよ。そうなっちゃうんですよ。そうになってしまう。うん。そこですよ。その意識の改革も必要ですよ。まちづくりの観点でいうと。そうなっちゃうんじゃ済まされないと。逆にいうと観光客も多分困るんですよ。土日来るじゃないですか、そしたら、ないねお店って話になってくると、なんか所謂西部地区の評価が下がるようなところが出てくるかなと思います。そういうところかな。

○仙石委員

お店やっぱ閉まるのが早い。

○奥平座長

早いですね。日没も早いので。西部地区は。

○仙石委員

早いですね。開けてても来ないんでしょうかね。

○奥平座長

人いないですしね。

○仙石委員

人いない。

○奥平座長

だから観光客向けの店にはいっぱい人は行くんですけど、じゃない店には行かないっていう極端な差が出ているのがこの地区かなと思うんですね。アンジェリック・ヴォヤージュなんですごいんですよ。あそこは朝から夕方まで並んでますから。そういうところもあればですね、全く並んでないところもいっぱいあるということですね。うん。

○仙石委員

最近西園に入れないうすね。混んで。びっくりしちゃって。あそこはもう塩ラーメンが本当に美味しく食べられる。なかなか入れなくて。極端になっちゃってますね。

○奥平座長

そうですね。だからそのところをどうするか。だからあのお店が少なすぎて集中しちゃうのかなっていうのはあります。だからやっぱりあれですね。私はそうなると屋台村かなと。ここが観光地であるということから考えると、食べるとこが少ないということから考えると、やっぱりそういうものがあってもいいのかなと。所謂大門横丁みたいなものですね。この地区にあってもいいのかなと思いますね。そうすることによってなんというか人が来やすくなるみたいなことができるのかなと思って。

ただ一つですね、問題がですね、大規模な空き地がですね、結構便利な旧病院跡とですね、ちょっと不便な西小中跡地というところには大きい土地があるんです。それ以外がないというところがあるので、そうするとじゃあどこに作るんだみたいな話になるとまたややこしいかなとというのはあります。はい。ありがとうございます。他にどうですか。さっき質問したんですけど、どうぞ。

○渡部委員

高龍寺の横に花屋さんのお店がたくさんあるんですが、あの花屋さんが食品を扱うお店になってくれば、地域の方々はどうなにかありがたいかなという気がします。お参りの花が目立ってたくさん並んでいるというのがちょっと残念な感じですね。もう少しまちを活気付かせるように何とかするという意味では、変えられないかなっていうことですね。あとはとにかく人を呼ぶためには何かをやらなければならないと思いますが、例えば定期的にキッチンカーを全員集合掛けて、40台集めたり30台集めたりですね。とにかくそう言ったイベントをあそこで定期的にやっていて、ワイワイガヤガヤを醸し出し、なんだここにいつも来るんだったら住んでみようかという、なんかそんなきっかけになればいいんじゃないかなと思いました。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。ワイガヤの復活ですね。はい。ありがとうございます。他にどうでしょうか。はい。堀田委員どうぞ。

○堀田委員

今キッチンカーってお話を伺ってすごくいいなって思ったんですけども、西部地区でチャレンジショップみたいな取り組みをされて、期間を決めて、お店が出店されてお試しでっていうところやられてると思うんですけど、なんかキッチンカーも同じような形で、例えば、函館市の方で数台保有していて、週末だったり、一定期間を民間のお店屋さんとかが借りれて気軽に出店できるみたいな座組を作ってあげて、ご支援するようなことができると、いろんな場所にキッチンカーとか行くような流れができるのかなと思いました。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。キッチンカーの使い方ですね。はい。どうぞ。

○阿知波委員

なんかこれ言っているのかちょっと迷ったんですけども、以前かなり昔、函館で水族館だとかの話出た時があって、でもなくなったと思うんですけども、別に大きい水族館じゃなくても、なんか海洋センターのなんか施設ありますよね、奥の、あそこで夏とかにイベントやって、あのちっちゃい水族館。なんかそういうのとかがあったりする。さっきのイベントじゃないんですけども。人が集まる新たな観光とか普段市民の人も子ども連れで行けたりとか、何か家族で行けるそういうものがあるといいのかなと。函館は港町ですし、なんか例えば室蘭でもちっちゃいなんか水族館とかあって、そんなにこぢんまりとしてても、そういうのがあると地元の人と行くか行かないかあれですけども、子ども連れの人とかは結構そういうの楽しみで行ったりとかするかなと思うんで、なんかお金かかんなくて何かできることないかなとちょっとふと思いました。以上で

す。

○奥平座長

はい。ありがとうございます。水族館でいうとちょっとうちの大学で私のゼミがですね、中島廉売とコラボしてですね、やってたんですけど、そしたらちょうどそこにですね、街角水族館からですね、一緒にやりませんかって話が来て、じゃあ一緒にやってみようかって言って、水族館兼中島廉売のアピールみたいな、なるべく食える魚を並べるといふうにしたらですね、いやあ、子どもたちいっぱい来てですね、予想をはるかに超える600人来てですね、逆にアンケートが大変みたいなことになりました。だからやっぱり飢えてますね。そういう場所がないというのは、言ってみれば観光施設がないということと言うと、そういう娯楽施設が函館には足りないのかなというのは痛感したところでもありますね。はい。高澤委員いかがですか。

○高澤委員

そうですね。やっぱり西部地区といえば西高校のイメージがすごいあって、高校生が一番求めているのってそれこそ娯楽施設なのかなってところで、映画館であったりカラオケであったりそういうところは一番高校生が求めているのかなって考えてました。

○奥平座長

そうですね、ありがとうございます。いや今銀座通りがちょうど江口眼科の通りが、あそこがもう映画館もあれば、カフェもあって、言ってみればもう一大繁華街だったっていうのが、もう写真とか残ってますけれども、かつてはあったんですね。やっぱりかつては人もいたんですね。やっぱり人がいたっていうのがやっぱり大きかったかなと思うんですけども、それが人がいなくなっていくことでどんどん北へ北へと移っていくことで、今のようになっているということから言うと、逆にその少ないし、いないっていうところを逆手に取って何かできないかということ考えると、実は若者を相手にするよりも、実は西部地区は私は年配層を相手にした方がうまくいくのかなと思ってます。何しろちょっと交通の便もあんま良くないということもあるので、遠いので。市電乗ってくればいいんですけど、市電だと割と時間がかかるということもありますので、そういったところから言うとはですね、ターゲット、年齢層をどうするかっていうことをちょっと皆さんにお伺いしたいなと思うんですけど、いかがでしょう。西部地区のターゲットはどうしたらいいか。若者が極端に少ないです。どうぞ。

○仙石委員

確かに若い人いないんですよ。

○奥平座長

いないですね。

○仙石委員

本当にいないですね。この前隣のうちの町会の茶話会に行ったんですけど誰も来なかったですね。若い人は。本当におじいちゃんおばあちゃんばかり。それはいいんですけど。先生のおっしゃる通り、ご年配をターゲットにするっていう方が現実的ではあるかなって思いますけど。ただね、西高校の学生さんもいるので。高齢者の方とそういう高校生の子たちが交わるような場所があるのが、ちょっと無理がないかなというふうに今思いましたね。それこそだから港まつりだったり七夕だったり、いろんな行事があるじゃないですか。なんかそういうときに何回か前に言っていた計画的偶発性で、計画的にそういうところでシナジー効果を生むように、人と人の交わるような働きかけをすると良いのかなって思いましたね。結構茶話会に行って思ったんですけど、ご年配の方は若い人とお話したいんですよ。すごよく分かりました。でも、いないので。なのでそれを作ってあげるっていうのがいいかなって思いました。

○奥平座長

だから寄り道施設ですよ。要はね。高校生とか、中学生はちょっと遠いな。中学生もそうですけど。小学生も。

○仙石委員

そこから広げると、高校生とはでも学校も小学校もあるからね。なんかそこを子どもたちも一緒になんか絡められる機会ありますか。

○奥平座長

お年寄り若い子が一堂に会する場所があればいいねっていう話になりますよね。

○仙石委員

子どもはお菓子配れば来ますからね。

○奥平座長

そうですね。そうそう物で釣る。

○仙石委員

物で釣る。

○奥平座長

他にお年寄りも来やすそうな場所で、子どもたちもたくさん来れそうな場所っていうと駅前かなってことになりますよね。はい。

○渡部委員

駅前はですね、思い浮かべると。法人の建物ばかり多い気がするんですよ。一般の方が住んでいるところが少なく、会社だったり、商売をされている方や倉庫だったり、そういったところが集まっているように思います。表通りは観光客の皆さんが多くいらっしゃって、居酒屋通りにお客様が流れて行っちゃうというようなところかなと思っています。今おっしゃるように高齢者とかもって世代を超えて駅前にどンドン呼びたいっていうことで言うと、そういう方々が好むものが何かないかなって思ったんですけど、例えば歌舞伎系のものだとか、幅広いファンが多い吉本のお笑いなどがあそこに来てもらえれば、それはそれでまたその世代が動くんじゃないかなと思いました。

○奥平座長

仕かけが必要だっていうことになりますね。やっぱりこの西部地区っていうと駅前地区も含めて西部地区にしてもですね、結局やっぱりその人がいないという、住んでる人がいないっていうのがやっぱりネックかなというところがありまして、逆に言うと、函館市内なのにも関わらず外から来てもらわなきゃいけないというような、その西部地区より外側の人たちに来てくださいうことをアピールしなきゃならない地区なので、そこをどうするかですよ。それがちょっとこの西部地区のネックかなっていうところになるかなと思うんですけど。

さて、皆さんどうでしょう。そこに呼ぶためには何か、今言ったイベントですよ。イベントもですね、お金かけるイベントなのか、それともお金かけないイベントなのかみたいなのも議論していく必要があるのかなと思うんですけどね。その辺はいかがでしょうか。これ駅前地区も含めてになるんですけど。この辺です。

○高澤委員

空港でハンドベルのイベントがあつて遺愛の。おばあちゃんおじいちゃん含め保護者の方、お友達が聞きに来ていたなというところで、高校の部活の発表の場とかを駅前でやるだったり、それこそおじいちゃんおばあちゃんがいるところに訪問して発表するだったりとかだったら、交流の場はできるのかなとかは考えていました。イベント関連になっちゃったんですけど。

○奥平座長

いいと思います。はい。どうぞ、ご自由にどうぞ。

○堀田委員

今のイベントの話でちょっとふと思ったのが、仙台とかでジャズフェスティバルみたいな形でストリートまるっともう歩行者天国みたいな形にして至るところで音楽を奏でて、で、そこにいろんな住民の方もそうですし、外から観光客も来て、それこそ多世代が音楽を楽しむという動きがあるので何かそういうのを函館でできたら面白いのかなと思いました。

○奥平座長

うん、ありがとうございます。さあ、他にいかがでしょうか。渡部委員。

○渡部委員

あその地域ですね、現地のホテルから見るとわかるんですけども、函館湾をぐるっと見渡せる素晴らしい景観の良い場所なんですよ。それを活かして、高層マンションをあそこに誘致をしていただいて、首都圏からとか、あと函館の市内の方でもいいんですけども、その地域に永住をしてもらい、景観を見て楽しんでいただくという施策を取るなどと。

○奥平座長

いや、いいと思います。定住ということ言えば、それは絶対必要なところで、一応棒二の跡地にはそれができる予定ですよ。はい。

○仙石委員

棒二の跡地にさっき言った屋台村みたいなものができるっていうことと、あと公益施設もできるって聞いていたので、あとそこで若い人も含め老若男女の人たちの発表の場とかで多世代が交流できるような公益施設になるといいかなって思うんですけど、高層ビルいいですね。素敵です。僕昨日一昨日と横浜行ってきたんですけど、14階のホテル泊まったんですけど、APAホテルで。みなとみらいを見渡せる。すごいやっぱり素敵ですね。そう考えると函館港を見渡せるっていうのも素敵かなって思いますね。

○奥平座長

うん。今キラリスしかない。

○仙石委員

キラリスしかない。だから、そこで定住してもらおうっていう点でいくと、そこに住んでみたいになって思ってもらえる場所になるといいかなって。

○奥平座長

高層マンションの誘致。まちづくりの方向性。これだけ一番実は課題解決に早いのかなって感じはしますね。

○仙石委員

そうですね。ある程度お金を持ってる方がくるので、まちにお金を落としてくれるのかなって気はしますね。そういった方って心に余裕があるので、いろんな人たちと触れ合うとかっていうところにも親和性があるかなって思いますね。

○渡部委員

ただこれがですね、常時お住まいではなく残念なことに、セカンドハウスになってしまっているということがありまして、首都圏のお金がある方ですね、北海道函館に、そういう家を作って、土曜日になったら来て、翌日にはまた飛行機で帰るとかっていう使い方、実際には、1年の内に何日もいないというのが結構あるようなんですよ。だからそういう方じゃない方なるべくお出でいただきたいんですけどね。

○奥平座長

Uターンですね。というようなところで大体西部地区は収まってきたのかなというところですので、次の中央部地区に今度は移りたいと思います。中央部地区の場所は、中央部地区は狭いですね。これが駅前、駅前から五稜郭公園までですね。五稜郭公園までの地域ですね、このまちづくりについてお話しすることってあるかな。話すのがかなり難しい地域でもあります。所謂DIDというですね、人口集中地区で建物もたくさん集まってる場所なので、こういう場所で何かやろうとすると再開発が必要になるという場所でもあるんですけども、さあ、そこでちょっと皆さんと考えていきたいなと思うところなんですけれども、ここって地価高いですよ。地価も高いです。

わかりました。大体の場所としては、函館の一番物と人と金が集まってる場所って言うべきかな。文句なしの場所なんですけど、ここでのまちづくりの方向性っていうか、これはもうなんて言ったらいいんですかね。どうぞ。皆さんからご意見をいただけますか。

○渡部委員

これだけで良い場所だと思いますけど。

○奥平座長

何もしなくてもいい場所っていうのはここかな。どうぞ。

○堀田委員

質問になるんですけど、中央部地区の住まわれてる年齢層ってどういった方が一番多いんですか。

○奥平座長

事務局調べてますか。確かにこれは年齢層が必要だな。

○堀田委員

今住まわれてる年齢が高いのであれば多分その後を考えないといけないし、若いのであればその方々が離れないようにという視点でのまちづくりっていう検討の方針はあるのかなと思っの質問でした。

○奥平座長

割とマンションが増えてきてる場所だから、もしかするとそんなに高齢化してない可能性はありますね。

○渡部委員

駅前から五稜郭の間ですと、堀川町、千代台あたりとか、あの辺りは高齢の方々が非常に多くて、空き家も多くなっているところのような気がします。

○奥平座長

私がちょっと声を大にして言いたいのは、中島廉売の活用ですよ。中島廉売うまく活用できないかなと。人増やせば復活できるかなと思うんですよ。中央部地区広いな。ここは逆に言うと住宅地と商用地が完全に分かれてる場所ですね、既に。なのでここでまちづくりをするととなるとどのようなまちづくりが考えられますかっていうとですね、どうぞ。

○仙石委員

住んでるんです、私。亀田町に。現状満足してる。

○奥平座長

そうなる。

○仙石委員

なるんですね。なんかあんまり不満がない。どこにでも行きやすいし、買い物もしやすいし、

何回か前に出てたのが、市電を出して、五駅まで結んだ方がいいって声が出てましたけど、それぐらいしか思いつかないですよ、正直。ごめんなさい、感想になっちゃって。

○事務局 小畑課長

すみません。先ほどの高齢化率の話なんですけど、一応地区別ですね、一番高いのが東部地区で48.6%、次が西部地区で43.1%、東中部地区が39.6%、次が中央部地区が35.4%、北東部地区が32.7%で、北部地区が28.4%というなかたちになっておりまして、大体中央部地区は真ん中よりも高齢化率はそこまで高くないかなと思います。平均的なところになります。

○奥平座長

北部地区なんで異様に低いんだ。低いのはちょっと疑問なんだけど。

○事務局 小畑課長

桔梗ですね。

○奥平座長

桔梗か。桔梗が引っ張ってるんですね。

○事務局 小畑課長

桔梗の住宅地が。

○奥平座長

だから南の方。だから変な話ですよ。北部地区は北部の北部と南部で全然違うという地域性が多分あるでしょうね。これ後でまた話さなきゃいけない。逆にここもですね、ここも多分、この図で言うと、これで言うんですね、高齢化が進んでいるところは、この周辺部は結構高齢化進んで真ん中の方が若いんじゃないかなこの地区は。

○渡部委員

平均してですからね。そうかもしれませんね。

○奥平座長

そうですね。ですから逆に言うところの新川に近い方とかこっちの方は結構人が高齢化していて、高盛とかあっちの方もですね、高齢化していて、あとこっちの海岸地区、ここも高齢化している。こっちは若いんですよね。この辺が。ちょっとこれ、そういう地区です。いや真ん中ほど若い。真ん中は割と若くて、周りに行くに従って高齢化してる感じ。そういうまちですよ。マンションの多いところほど若い人が多いかなって感じするので、それはちょっとこのまちの特徴かなと思います。さあこれでまちづくりどうします。でね割とその端っこと、こっち側とこっち側ですね、かなり温度差があるような気がします。

○仙石委員

そんな気がしますね。

○奥平座長

何かそっち東部地区なのにこっち西部地区みたいなイメージありますよね。駅に近いほうですよ。この駅に近いほう、例えばですね、あいよるのあたりと、深堀町の電停が一応入ってるので、これかなり温度差のある地域だなんていう感じはします。もう既に揃ってるんですよ。割と揃っていて、ここの問題としてはデパートがなくなった場合にどうするかですね。テーオーが空き地で今、空き家で残ってますので、あともう一つは、あんまり不吉な話なんと言わないようにしてるんですけど、某デパートがですね、いなくならないことを祈りつつですね、最後に残ったデパートなんですけど、そういうところで言うと、そこが消えるとですね、街が大きく変わってしまうというところがあるかなと思うんですね。だからそうすると、今とりあえずナイトタイムエコノミーという話をしてみましたけど、これを充実させるという方向性がいいのかな、こっちは

ってとりあえず思いますね。で、歩道をですね、ここ中心市街地活性化の方で、歩道に座席を出せるんですね、ここね。夏場とか。なのでそういった使い方をするという提案ももしかしたらあるのかなと。だから夜の、特に夏の夜ですね、夏の夜どういうふうにご過ごすかっていう点でいうと、お店の集積はすごいので、それをどう、さらに活性化させるかみたいなのところを考えるのがいいのかな。この地区は、という感じがしますね。他に考えようありますかっていうとですね、どうでしょう、皆さん。皆さんの意見をお聞きしたい。これ答えが出にくいかもしれません。若い感性で高澤委員どうですか。

○高澤委員

やっぱり夜のバスだったり公共交通機関を充実させていただけたら楽しめるなって思います。

○奥平座長

終電終バスの時間を繰り下げる。これですね。はい、ありがとうございます。実は湯川だけ遅いんですよ。市電が。湯川はですね、五稜郭11時があるんですよ。だから湯川方面に住んでる人は十分楽しめるんですけど、反対側は9時ぐらいに終わるんですね。全然これ駄目じゃんっていう話があってですね、そういうところがですね、やっぱりどっちも揃えた方がいいねっていう、なるのかなと思います。今の高澤委員の話はもっともだと思います。他にどうですか。どうぞ。

○阿知波委員

夜のお店の関係でちょっと感想なんですけども、結構いろんなイベントとかもやっていると思うんですけども、なかなか難しいと思うんですけど、意外に道幅が狭いっていうか、結構イベントでやるっていうのも七夕祭と話も出てましたけど。ただ移動する道幅とかなんか溜まり場所っていうところが意外に古くから開けてるからなのか、狭いような気がして、その辺の整備ができると、こうなんでしょうか。いろいろお年寄りの方とか障害をお持ちの方にも優しいような道幅っていうか、溜まるようなイベントができるっていうかそういうところがちょっと工夫ができれば良いなという感想です。

○奥平座長

あれですね、再開発ですね。道路が狭いということでやっぱり再開発道路を作る必要が出てきているのかなと思いますね。うん。あとはいかがでしょう。仙石さん、マイクを握りしめてますから、お話したいそうです。

○仙石委員

今言われちゃった。あの道路がね狭いというのがやはりあって、大事なのは大きい病院が二つあるので、緊急車両が通りやすいようにするとか、その辺の配慮が要るなって思いましたね。結構揺れるじゃないですか。線路あるし。あそこ運ぶときになるべく怪我した方を揺れない状態で運んであげた方がいいかなって思ったりもするので、そうですね、やっぱりその辺の整備が必要かなって思いますね。結構緊急車両来て避ける場所ないですよ。それはあるなって思いますね。それぐらいですかね。

○奥平座長

はい。他に皆さんいかがですか。これだけは言っておきたいっていう五稜郭で言っておきたい。言いにくいよなここ。先ほど渡部委員おっしゃってたマンションの話なんですけど、五稜郭地区マンションいっぱい建つんですよ。やっぱり便利がいい、利便性が高いということもあるので。そうするとあそこだけがなんかマンションいっぱい建ってですね、いいのかな。逆に言うと人口は増えるし、年齢層も変わるので悪くはないんですけども、そう考えると、誘導はできないですけども、港の方に作ってくれないかなみたいなのところはありますね。だからキラリスは画期的だったんですよ。駅前に高層ビル作るっていう点でいうとですね。そしたらよくよく見た

ら函館市は不思議なのが、五稜郭の本町交差点と駅前交差点になぜか1棟ずつ高層マンションが建ったっていう、再開発ビルで建ったということがですね、これまた分散してしまったっていうところはちょっともったいないかなというところがありました。あれ2棟駅前に建ってればかなり違ったかなという感じがしますね。ええ。はい。他にどうでしょうか、どうぞ。

○渡部委員

今そういう施策にですね、どんどん税金を使ってほしいって思うんですよね。だから誘致地区には建設に補助をして、そのかわり何階建て以上ですよ、とかね。そういったことをお約束させて誘致をするというのを、ぜひやってほしいと思います。

○奥平座長

はい。ありがとうございます。所謂あれですか、高層市営住宅。そういう発想ないですね。函館高層市営住宅って発想全くないですね。低層の住宅がいっぱいあるんですけど。5階建て未満が多いんですけど。そういう点でいうとそれがもしかすると新しい起爆剤になるかも。ただ民業圧迫になるのであんまりやっちゃいけないんですけど。やると、戸数多くなるとですね、民業圧迫になるので、そういったところも懸念されるんですけど、いろいろアイディアですからそういうのもいいですね。他にどうですか。もう今あるので十分っていう場所なのでなかなか思い浮かばないっていう。じゃあこの程度でいいですね。はい。では次いきます。

次は東央部地区ですか。でっかいんですけど、ここはですね、言ってみると大規模な競輪場・競馬場、そして刑務所、そして自衛隊が全部ここにある、それですね、東西で街が分断されてる場所でもあります。あと北の方に行くんですけど、今度は日吉とか花園とかっていう住宅地ばかりの場所もあってですね、あと湯川が今度別ななんか温泉保養地みたいになっているというところになるんですけど、さてこういうところで皆さん、まちを活性化させるためにはどのようなことを行えばいいのでしょうかというところなんですけど、ここには良いこと書いてありますけど。難しいなここは。今温泉街のですね、舗装を全部直してですね、明かりが街を明るく照らすような、そして街をそぞろ歩きできるような、そういう街路灯に切り替えましたので、そういうところもですね、もしかすると新しいまちづくりの一つの方向性、それは湯川だけでも、なんていうのが今進んでいるところなんですけれども、さて問題はその住宅街の方はどうするかっていう、なんですけど、イメージ湧きますか。場所から言うとですね、工業高校も入りますか。

○事務局 小畑課長

工業高校は入ってますね。

○奥平座長

これはイメージ湧きにくい場所ですね。ええ。高校としてはですね、男子校のですね、有斗高校とラサール高校があります。あとは大学高専はですね、函館大学と高専。それから短大もありますね。短大もいっぱいあるところですね。学園もそうですね。あとは温泉街とそれから巨大な先ほど言った、自衛隊等を含める大きな土地を持つところがいっぱい並んでるところになります、の半分ですね。ええ。だから並んでるのが、そっか、し尿処理場から北に上がっていくから、し尿処理場、競輪場、それから自衛隊、駒場小学校まで繋がってるんですね。これがですねまちを分断してる大きな施設です。皆さんどうでしょうか。こういうところでのご意見を頂戴したいんですけど、お話できる方いらっしゃいますでしょうか。どうぞ。

○渡部委員

今の場所はですね、ちょっと他の地域でも珍しいような場所なんですよね。競輪場があって、競馬場があってというのは、函館のほかにはそんなにないような気がしますから、これはこれ

で、こういう施設を十分活かしていただいて、地域の活性化につながればと思います。また、僕は自衛隊のそばに居るんですけども、この界限はすごく高齢化していて、かなりの方がお年を召しているように思います。ここでいうと 39.6%の高齢化率とお伺いしたので、それぐらいに匹敵するぐらいだなと思いますけれども。あと日吉方面までいくと高低差が大変多い場所なんですよね。人の流れをご商売されている方に聞くと、上から下には下りてくるけれど、下から上にはいかないもんだとおっしゃるんですよね。だとすると、上の方は下へ降りてきますので、下の方を上に上げるためには何か魅力的なものを作るとか考える必要があるんでしょうけれども、なかなか決め手がない難しい場所かも知れませんね。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。いま高低差の話が出たんですけど、ここですね、電車通りが一番高いんです。電車通りを挟んでですね、南北にですね、徐々に下がっていくんですね。徐々に下がっていくそういう地形です。なので、高低差結構あります。他にいかがでしょうか。

ここも割とですね、アリーナもありますし、施設は揃ってるかなというところですね。ですからあとは、実は亀田方面の交通がいまいちなんですけどね、ここ。私住んでるのでわかるんですけど。亀田方面のバスが少ない。更に減便されて少なくなりましたけど、元々ですね、終バスも少ない。ですよね。なので湯川とですね美原地区はですね、行き来するのが大変という場所でもあるんですね。そうすると、逆に言えば北東部地区との連携取れないんですねってのはちょっと悲しいところで、もう市電沿線を使わざるを得ない。市電沿線で隣の北東部地区からの延長という話していくしかないまちでもあります。はい。

あとですね、湯川に住んでることを言うんですけど、湯川もですね、実は全然飲み食いするところがないんですよ。なくてですね、これがですね、実は湯川の旅館ホテルもですね、問題だって言い始めたんですね。なぜかという今度料理人を取れなくなった。料理人が取れなくなると、それこそ街にでない今度は食べられないみたいなことが起き始めた。そうするとやっぱり遠いじゃないですか。湯川から違うところへ行くと。それがやっぱり今ネックなので、どうしようということていうと、やっぱり湯川ももしかすると、屋台村みたいなものが必要なのかなというところは感じてるところで、入口のところのですね、足湯のところのパチンコ屋が閉店したので、あそこをうまく活用できないかっていう動きを今いろんなところに働きかけているところでもあります。なので、そうすると、それはいいねって旅館の人たちも言われましたので。それはもしかすると動き出すかもしれないなというところではあるんですけども。さて皆さんどうでしょう。ちょっと今そういう話をしましたけどどうでしょうか。それぐらいしかないんですよね。ええ。ただ交通はすごい便利になりました。車で行きやすくなったっていうのはあるので、それを逆手に取った何かができないのかっていうのがあるんですけど、問題はですね、便利になったんですけども、スーパーマーケットしかないんですね。スーパーマーケットがいっぱいあるんですけど、イオンもあるしね、アークスもあるし、生協もあるし、揃ってるんですけど、それしかないぞ。はい。

○阿知波委員

湯川だと植物園、熱帯植物園とか。家族で猿とか見に行ったりするんですけども、ガイドがなんでしょ多分あそこ NPO とかを運営してらっしゃって、多分ホテル、旅館とか観光客の人もあの辺そういうの見に行って、ああいうのがもうちょっと充実したりとかできるとなんかいいなってこう単純に思ったんですけど。

○奥平座長

はい。ちょっと離れてるんですよね。ええ。しかもあそこ根崎というところですね、根崎温

泉の泉源が熱帯植物園にあるんですよ。なんていうのがありましてですね。温泉がすごい豊富なのは確かなんですけど、それをどうするっていう問題がこれから出てくるのかなと思ってるんで、やっぱり猿がお風呂に入るのしか見られないのか。夏場の熱帯植物園の使い方がよくわかんないっていう部分がネックかなというのはありますね。はい。他にどうでしょうか。皆さん。何でもいいです。湯川で気付いたことがあればですね。どうぞ。

○高澤委員

さっき話が出てた大学だったり、短大だったり、高校がめっちゃあることにびっくりしています。その子たちが勉強するってなったら、Gスクエアまで来るのかなとか、遠くないかなみたいに思っていました。

○奥平座長

その通りです。そうなんです。Gスクエアにほとんどの学生が行ってしまうということがありました。高校生は特にGスクエアに行っちゃうてのはありますね。大学生は自分とこの図書館に行けるので大丈夫かなってのはあるんですけど、高校生がね結局行き場を失うというところはやっぱり。しかも高校の数多いので、さあどうしようっていうのはやっぱりありますね。そういう感じでしょうかね。これ以上話してもなんか時間経つだけなので、次行きたいと思います。今度は北東部、北東部はまちなかですね。さあどうでしょうか。

○渡部委員

こちらの地域はですね、人が移っている場所なんじゃないかなっていうふうに思います。西部地区の方から向こうの方に移ったりとか、中央部地区から石川町方面に移ったりとか、若い人が比較的多い場所になってるんじゃないかなと思いますけど、これ高齢化率が32.7%なんですね。石川町は区画整理がされ、結構若い方が多いんですけどもね。

○奥平座長

だから北の方の石川とかそっちの方が入ってくると、所謂高齢化しなくなる。で、若い人たちが増えるという傾向があって、ですから北の方は若いんですけど、南の方は、逆に富岡とかは逆にそんなに若い人たちがいる感じではないですね。これは旧亀田市があった頃の新興住宅街なので、今から40年ぐらい前にできた新しい、だからそう考えると、高齢化してもおかしくない地域ということになると思うんですけど。言ってみれば、あそここの地域の問題点は何かっていうと、住宅しかないなって。イメージとして。基本的に住宅街ばかりだねって、大きな商業施設は新道まで行かなきゃならないかなってとこですね。函館新道、新道沿いのところですね。あそこが振興の住宅街になっててそこは若い人たちが集まってきてる場所ということになると思うんですけども。そうすると北の方と南の方でこれまちづくり変わるんですよ。大きく変わってくると思うんですね。北の方ではおそらくですね、学校足りなくなる現象が起きると思うので、そうすると学校どうすんだって話が多分出てくるし、まちづくりで言うんですね。いや実は若い人たちがたくさん集まってくると、必ず起きるのが小学校問題なんですよ。小学校足りないって話がどうしても出てくる。で、そういうところで言うとその北の方はそういう問題があるんですけど、逆にずっと南の方の富岡とかそっちの方に行くと今度は逆に統廃合したところですので、もう逆に子どもいないみたいなどころですから、ちょっと温度差が大きいかなっていうところはありますよね。こういうところでどういうまちづくりをしたらいいのかっていうところですよ。

○仙石委員

ここは観光客は行かないですよ。

○奥平座長

行かないですね。亀プラがありますけどね。うん。亀プラは観光地じゃないので。ね。

○仙石委員

鳶屋行くか。

○奥平座長

鳶屋は行きますかね。

○渡部委員

これ昭和タウンプラザは入ってますか。

○事務局 小畑課長

入ってます。

○奥平座長

商業施設は結構あるんですね。

○事務局 小畑課長

メガドンキもあります。

○奥平座長

全部入っちゃうんですね、あそこ。美原の商店街。したらなんもいじる必要ないですね。五稜郭と同じじゃないですか。それでは五稜郭と同じということで。もう時間もないんで、次行きたいから。次行きたいと思います。

○仙石委員

あのイトーヨーカドーのところに、新聞見てたんですけど、子どもたちが集う場所を無料でその会社が貸してくれてっていうのはなんかあれすごい良いなと思ったんですけど、どういう流れがあったのかなって聞きたかったんですけど。

○事務局 小畑課長

あれはですね一位さんの方で、自らそういうインクルージョンという、市長も公約で言っていることでもあるんですけど、誰もが使えるような広場を作りたいと自らお作りになられた施設ですので、特に市が関連してるわけではございませんので、もう素晴らしい施設だなと思っています。

○仙石委員

子どもが例えば親御さんが来るから買い物するっていうことなんでしょうね。そういうことなんでしょうね。

○奥平座長

集める方法ですよ。子どもたちを集める方法が、どうぞ。

○高澤委員

すいません。子どもたちがいるまちっていう点でやっぱ安全性っていうところを重要視したいんじゃないかなって思っていて、大学付近に街灯がなくて、怖くてっていう意味で、ほかのまちにも共通することだと思うんですけど、なんだろう、通学路とか街灯があると住みやすいっていうか安全だなんてまちに対して思える要素かなって思っていました。以上です。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。産業道路が新外環状線ができてからですね、大幅に交通量減って、昔みたいに危ない道路じゃなくなったのが大きいかなとは思いますが。渡るの大変なところだったのが今、簡単に渡れるようになりましたから。

○渡部委員

渋滞しなくなりましたよね。

○奥平座長

そうですね。車も皆ゆったり走り出したというところがあるので、だから子どもたちが集めやすいかなというところはありますね。そういう点で言うと新外環状線の効果があるから、産業道路の方でうまく南北が繋がるような、そういう動きができるのかなというところは、これから新しい取り組みかなと思いますね。若者を集めるということですね。というところでしょうか。はい。

北部地区行きたいと思います。これは水産学部周辺ですね。新興住宅街が大半というところになるのかなと思いますし、あとは工業都市である北斗市への通勤が便利ということもあるから、そういうところでここには人が集まるのかなというのはやっぱりありますよね。ここでまちづくりするとしたらこれはやっぱり若者向けのまちをここは作る必要があるのかなっていうことですね。それこそ育児のための何かセミナーをやる施設みたいなのがあればいいのかなと思いますしね。

他にどうでしょうかね。皆さん。ちょっと今、私は例として言っただけなんですけど。この地区でこういうまちづくりをするといいんじゃないか。水産学部に水族館を作ってもら。函病もある。これ子どもたちを使って、子どもたちが函病で何かできないか。子どもたち結構多い地域ですね。港地区ですもんね。函病で何かやってくれないかな。函病でなんか体験型の学習をするみたいなこともできれば面白い。函病とか、それこそ水産学部とかでやれると、子どもたちも将来の就業体験みたいなことができるのかなと思うし、いいですよ。逆に水産学部でお魚の取り方を学ぼうというのもいいのかなと思うし、あと港の方と北の方で全く町が違うので。北の方に行くと今度は商店街ですよ。商業きちやうんで。鳶屋とかあの辺でしょ。またちょっと違ってくる。でもやっぱり若者向けの何かっていうことを考えていくと、あの辺、結構若者多いので。

○仙石委員

あと大野新道を通ると、道が狭くなってしまいますね。道路が。

○奥平座長

大野新道ね。

○仙石委員

函病に曲がる道が冬は結構危ないなって思いますね。

○奥平座長

変則交差点ですよ。

○仙石委員

変則交差点なので、線路もあるし、踏切もあるし、結構渋滞危険だなって感じるかな。とはいえ拡幅も大変。なかなかね。

○奥平座長

いやあ難しい。陸橋からの右折ですからね。道路関係がちょっとね、やっぱり鉄道との絡みがあるのでかなり窮屈な感じがあるかなというところが思いますよね。あとどうでしょうかね。道路の改善ですね。そうすると。他にいかがでしょうか。それこそ子どもたちが集まる施設とかこういうところに作れたら面白いですね。それこそ鳶屋の近くにあると面白くなっているのはありますよね。というところでしょうか。他にないですか。時間がないのでだんだん焦ってきます。最後が東部ですから、先にやればよかったなと思ってます。今失敗したなと思ってます。これ何もないぞ、どうするっていう。さあここは皆さんどうですか。東部地区に移ります。はい。

○渡部委員

東部地区はもうアウトドアの地域に是非してほしいと思います。サーフィンの大会や世界大会までもやってもらえそうな、そういったスポーツマンが集う地域にしてほしいですね。あとはこ

こで、自動運転バスが走るという、先日いい実際に走っている地域のお話を伺ったものですから、まさしく東部地区だなと思って聞いておりました。いかがでしょうか。

○奥平座長

はい、ありがとうございます新しい交通体系ですね。はい。

○仙石委員

それをこう、なんだろう、それも叶えつつっていうところでいくと、廃校してる学校もあって、その跡地でそれこそなんか何かしら体験、そのあと海のまちなので大学の水産学部とかが移転して何かやるとか、その場所はあるわけですね。土地はあるわけですからね。そういったところ。あとは建物もあるのでうまく耐震やって活用できるかなって思いますけど。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。はいどうぞ。どんどん皆さんの意見。

○阿知波委員

なんか函館市さんでやられてるのちよっとはっきりしないんですけども、うちの協議会に教育大学の学生さんが授業で関わってくださってる学生さんが。東部、この東部の方のいろんな地区の先ほどお話あった観光のアイデアを泊まりかなんかで体験して自分たちで企画立ててプレゼンするみたいな授業をやってるって聞いたんで、そういうのなんか新しい若い世代の人の視点入れて、どんどんそういう活性化していったら面白いかなと話し聞いていて思いました。以上です。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。同僚がやっています。

○渡部委員

もう一ついいでしょうか。ここにはですね、恵山という素晴らしい活火山があり、今でも噴気が立ってるところもありますので、ああいう資源を活かし、温泉卵を販売するだとか、鹿部の道の駅のような何か食べ物などでも観光に来ていただくような施策をしてほしいと思いますね。

○奥平座長

ありがとうございます。

○仙石委員

そういったところではあそこの温泉熱を利用して、はこだて恋いちごってあれはあそこで栽培してるんですけど、すごいですよね。だから熱、地熱は本当に使えますよね。そこをしっかりとPRすると企業誘致もできるかなってちょっと思いました。ビジネスチャンスはいくらでもあるかなって思います。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。まだ発言されてないお2人いかがでしょうか。

○堀田委員

商業の観点で昆布が有名っていう、すごく生産が盛んなところもあるのでもっと昆布を打ち出してもいいのかなっていうふうに思いました。何か縄文だと今はすごく文化的に価値もあるってところでしっかりとしたミュージアムもあったりするので、昔昆布館ってあったと思うんですけど閉館してからこのエリアではあんまり昆布を打ち出しているようなところがないので、せっかく南茅部のエリア盛んだと思うのでそういったところに商業っていう視点でそういうミュージアムをちょっと増やしていくみたいなのところいろんな文化施設を見て歩いてアウトドアを楽しむみたいな施設が増えると良いかなと思いました。

○奥平座長

はい。ありがとうございます。高澤委員最後どうぞ。

○高澤委員

そうですね。なんか縄文の施設もすごい価値ある建物だと思うんですけど、それ以外に漁業であったり昆布であったり恵山であったり自然を打ち出した施設を作ったら楽しそうだなって思いました。以上です。

○奥平座長

はい、ありがとうございます。ここ東部地区って一周すると大体80キロぐらいあるんですよね。結構いい距離があってですね、見所たくさんなんですけれども、交通手段が車しかというところが一つネックで、今自動運転のバスとかいう話も出てきてるので、これは実証実験やるにはちょうどいい場所かなと思いますし、そういう方向性。だから新しいMaaSっていう新しい交通機関の実験場所としての価値はここあるのかなと。ですからそうすると先ほど出ていたバスの無料と有料の取り合いをしなくて済むようになるのかなというのは非常に大事な部分かなと。やっぱり函館バスさんを存続させるためにも絶対必要な施策かなと思いますし、あとこの部分で言うそうですね、ここは人があまりいないということがまず一つあってですね、人がいないということは、大音量でも大丈夫な場所でもあるんですよね。だから、野外イベントの場所としても使い勝手があるのではないかなと私は思ってます。例えば恵山とかですね、ありますし。あと収容施設としてはですね、先ほどから言ってるアウトドア体験とか言ってますね、泊まる場所がないんですけど、泊まる場所はホテルもあるんですけど、例えば、それこそ廃校になった高校の跡とかですね、小学校の跡とか、たくさんあるんですよ。これをうまく活用するという方法もあるのかな。これをですね、逆に若い人たちに考えてもらうみたいなのも面白いのかなというのはありますよね。

○仙石委員

そういった動きでいくと恵山岬灯台を活用しようっていう動きで、地元の子の方々が動き始めているので、そこをしっかりとバックアップ市の方でもらえると、彼らすごい頑張っているんで、いいかなっていう話を聞いているところです。あそこはしっかり整備されているので、ちょっと鹿のうんちがあれですけどね。そこをうまく活用してもらえると、野外イベントもあそこできるとかなって思います。

○奥平座長

そうですね。であとサーフィンのメッカですから。旧鍛法華村の銚子浜はですね、有名な世界大会までやれる浜がありますので、そういったものもですね、もっとアピールしているのかなと思いますから、そうするとやっぱりアウトドアスポーツ型の地域でここはまちづくりしていくのがいいのかなということになるのかなと思いますね。すごい簡単に決まりました。かえって良かったかな。最後良かったかな。ちょっと時間5分ほどオーバーしましたが何とか時間内に6地区を終えることができました。ありがとうございました。

次は、以上テーマに係る議論を終わりにしたいと思います。はい。他にその他でございませけれども、委員の皆様から何かありませんでしょうか。大丈夫でしょうか。では事務局からどうぞ。

○事務局 小畑課長

本日の会議、皆様お疲れ様でございました。

当市民懇話会は6月から月1回のペースで開催させていただきまして、各テーマに沿った議論の場につきましては、本日が最後となりました。委員の皆様におかれましてはご多忙にも関わらず長期間にわたり当会議へのご参加をいただき誠にありがとうございました。

これまでテーマごとに様々な視点から大変貴重なご意見を賜りましたことに事務局として心よりお礼を申し上げます。なお次回が最終回となりますことから、これまで委員の皆様からいただいたご意見を基に作成したまちづくり提案書をですね、最終回にご確認をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局 上田主査

はい。本日の会議の内容につきましては市の方でまとめさせていただきまして、次回第7回懇話会開催案内と併せて皆様にお送りしたいと考えております。

また会議の冒頭で確認していただきました第5回市民懇話会の会議録と事務局で撮影いたしました写真を近日中に市のホームページに公開したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次回最終回となります第7回の市民懇話会は令和7年1月9日木曜日午後6時30分から、場所は本日と同じ市役所本庁舎8階第2会議室。最後のテーマはまちづくり提案書の決定を予定しております。

また会議終了後にご案内させていただいております懇話会を予定しておりますので、ご参加いただけます皆様どうぞよろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。

○奥平座長

はい、ありがとうございました。

それでは以上をもちまして第6回市民懇話会を終了いたします。本日はお忙しいところ、またちょっと時間オーバーしましたけれども議論に参加いただきましてありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

ではこれにて終了いたします。ありがとうございました。

以上